ノバクト®M静注用を使用されている方へ

一般社団法人
日本血液製剤機構

KMバイオロジクス株式会社

ノバクト®M静注用 500単位 1000単位 2000単位

の溶解方法



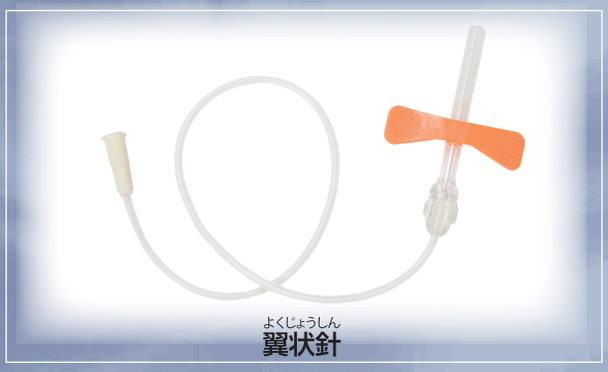
製剤と溶解液



溶解液注入針



フィルトラン（フィルター）



翼状針（よくじょうしん）



注射器（シリンジ）

こちらから溶解動画を
ご視聴いただけます

●この冊子は、乾燥濃縮人血液凝固第IX因子「ノバクト®M静注用」をお使いいただく際の溶解方法を解説するものです。
●ノバクト®M静注用1000単位を例に説明します。
●本剤の詳細は、電子化された添付文書をご参照ください。（PMDAホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html）

溶解前の準備

①液体石鹸で指先までしっかり手を洗い、清潔にします。



※固形石鹸は、菌が繁殖しやすいので使わないでください。

②以下が全部そろっているか確認します。

＜本製品に含まれるもの＞

- 製剤バイアル
- 溶解液バイアル
- アルコール綿×2
- 溶解液注入針（以下、注入針）
- シリンジ
- フィルトラン×2
- 翼状針
- 救急絆創膏 2種類
- 廃棄用ビニール袋
- 取扱説明書

机の上も清潔にしておきます。

薬の溶かし方

※溶解時に沈殿の認められるものは投与しないでください。

①製剤バイアル及び溶解液バイアルのキャップを外し、ゴム栓を消毒します。



②溶解液バイアルに注入針を内筒が見えなくなるまで垂直に押し込みます。

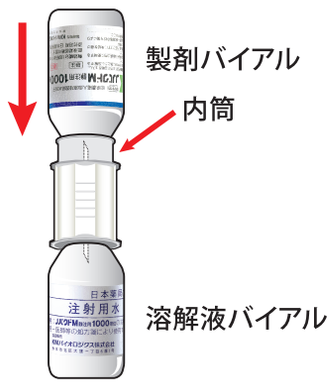
注１）注入針は必ず先に溶解液のバイアルに刺してください。注入針に上下の区別はありません。



注入針の両端にある内筒は、押すと本体に格納され針が露出するため、直接触れないでください。



③逆さにした製剤バイアルを注入針に内筒が見えなくなるまで垂直に押し込みます。

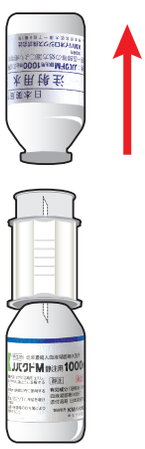


④溶解液バイアルが上にくるように逆さにすると、溶解液が製剤バイアルに入っていきます。

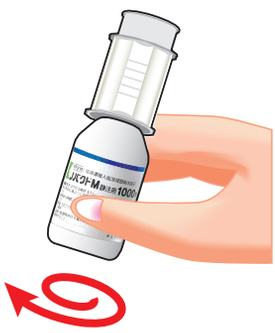
注２）必ず製剤バイアルを注入針に押し込んだ後で逆さにしてください。
溶解液バイアルと注入針だけを逆さにすると溶解液がこぼれ出てしまいます。



⑤溶解液注入後、注入針を製剤バイアル側に残したまま、空の溶解液バイアルを抜き取ります。



⑥製剤バイアルをゆるやかに振盪し、完全に溶解します。

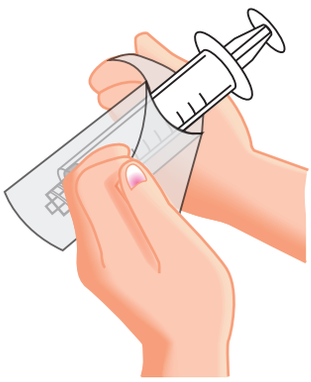


上下に振らないでください。
また、勢いよく振らないでください。

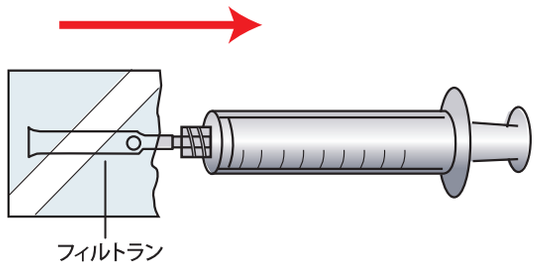


注射の準備

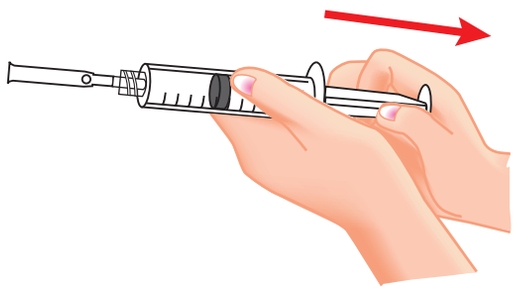
①シリンジの先端にさわらないように注意し、シリンジを袋から取り出します。



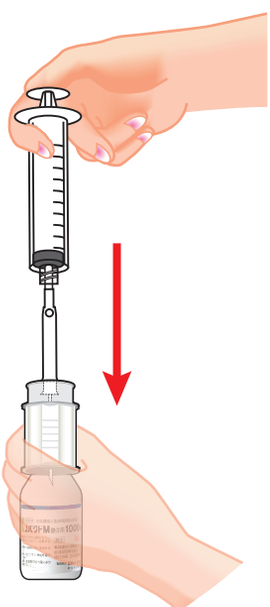
②フィルトランの袋をあけ、直接さわらないように注意して、シリンジにフィルトランをつけます。



③シリンジの押し子を5mLほど引いておきます。

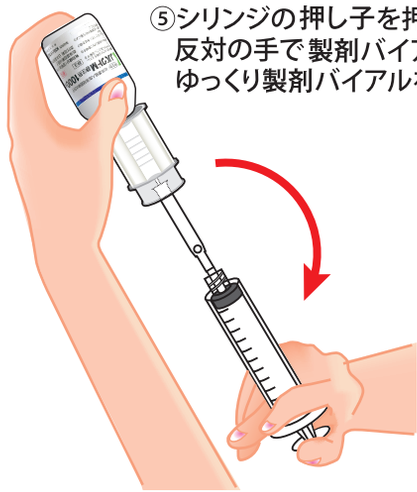


④注入針にシリンジのフィルトランをしっかり差し込み、親指でシリンジ内の空気を製剤バイアルの中に押し込みます。（シリンジの押し子から指を離すと空気が戻ってくるので、指を離さないでください）

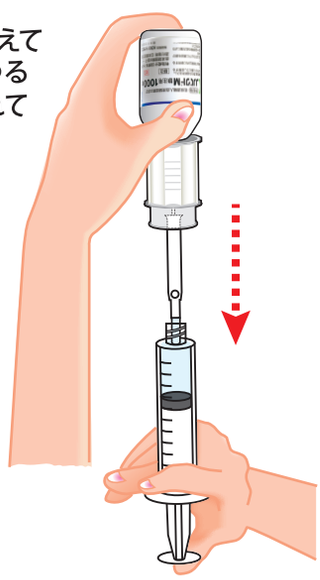


押し子を押して、シリンジ内の空気をバイアルに押し込みます。

⑤シリンジの押し子を押したまま、反対の手で製剤バイアルを持ち、ゆっくり製剤バイアルを持ち上げます。



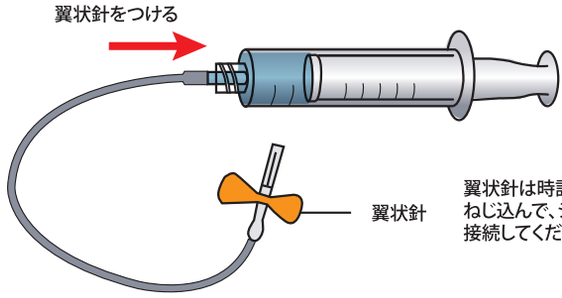
⑥シリンジの押し子を押さえている指の力を少しずつゆるめると、空気に押し出されて薬液がシリンジに入っていきます。



⑦薬液が全部シリンジに入ったら、フィルトランからシリンジを抜き取り、翼状針（よくじょうしん）又は注射針に接続します。

※本製剤に注射針は同梱されていません。

翼状針をつける

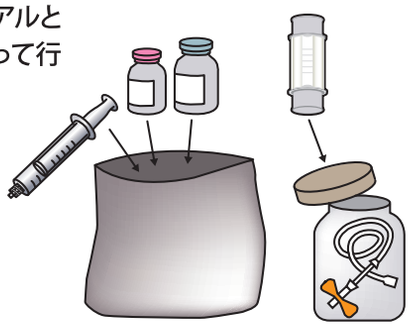


翼状針は時計回りにねじ込んで、シリンジと接続してください。

準備完了!

廃棄方法

針類は針が飛び出さないような硬い容器に入れてください。シリンジ、製剤バイアルと溶解液バイアルは廃棄用ビニール袋に入れてください。次の受診時に病院に持って行きましょう。その他の箱や器具の袋などは、自宅で廃棄してかまいません。
詳しい廃棄方法は、医療機関にお尋ねください。



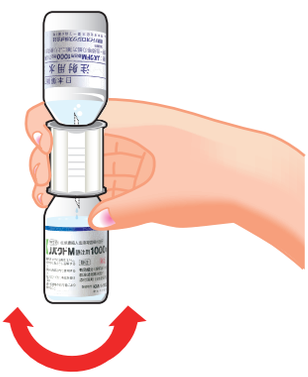
トラブルシューティング

溶解液が製剤バイアル内に移行しない場合

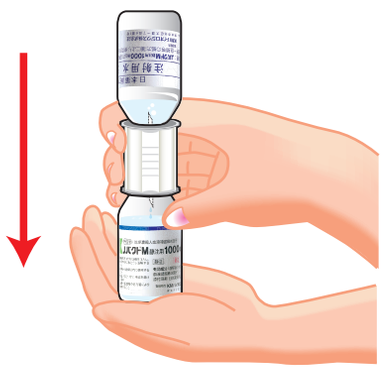
移注不良が起こった場合には、対処法①又は②の方法で、注入針の空気流路内の液を除くとスムーズな移注が可能となります。　※いずれの方法でも解消しない場合、医療機関にご連絡ください。



〈対処法①〉軽くふる



〈対処法②〉製剤バイアル底部を軽くたたく



注意点

- [ ] 家庭では子供の手の届かない所へ保管してください
- [ ] 持ち運び時は、車内など直射日光の当たる場所に放置しないでください
- [ ] 持ち運びに長時間を要する場合は、保冷バッグを利用し30℃以下に保存してください
- [ ] 薬剤は使用する直前に溶解してください
- [ ] 溶解時に沈殿の認められるものは投与しないでください
- [ ] 溶解後は1時間以内に使用してください
- [ ] 箱やラベルに書かれている最終有効年月日を確かめてください
- [ ] バイアルがひび割れなどをおこしていないか確かめてください
- [ ] 使用後の容器内に残った薬液、移注セットは再使用しないでください
- [ ] 他の薬剤と混注しないでください
- [ ] 注射に足りないものはないか確認してください
- [ ] 製剤バイアル・溶解液バイアル・シリンジなどの廃棄は、上記『廃棄方法』を確認してください

KMバイオロジクス株式会社
一般社団法人 日本血液製剤機構
MS-NOV-001C-
2023年8月改訂
NO2003-230804